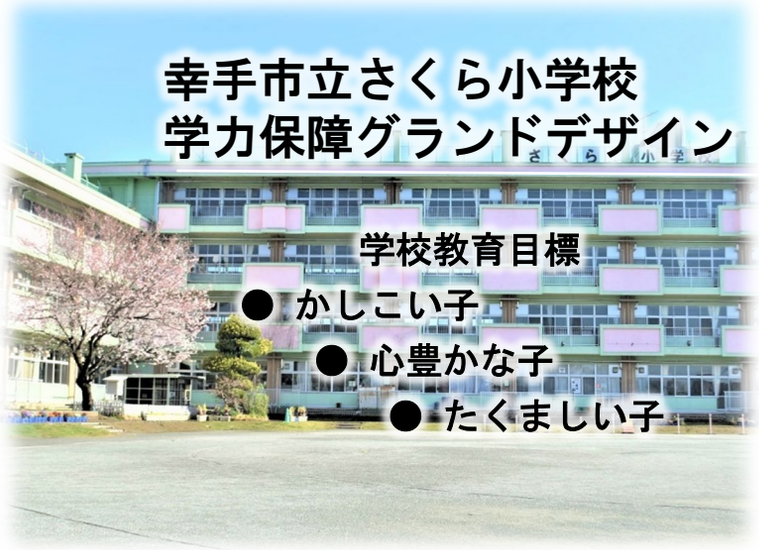

幸手市立さくら小学校
学力保障グランドデザイン

学校教育目標

● かしこい子

● 心豊かな子

● たくましい子

学校研修課題

「生き生きと学び、主体的に取り組む児童の育成」
～意欲を育む対話的な学びを通して～

本年度の重点

1　対話的な学びの充実による子供が主役の授業
2　反復学習の徹底による基礎学力の定着
3　学校ICTの積極的な活用による個別最適な学びの実現

目標達成の指針

1　全国学力・学習状況調査　　平均正答率
2　埼玉県学力・学習状況調査　平均正答率
　伸びの見られた児童の割合　学力が伸びた児童割合
3　幸手市統一学力調査　　平均到達スコア
4　学校評価による目標の達成児童割合
5　学力向上週間＋家庭学習充実週間の年間実施

ふるさと幸手を愛し、志に生きる児童を育みます。

学校の共通行動

❁ 落ち着いた学習環境の整備

インクルーシブ教育の理念をもとに全ての児童が学びやすい環境を整え、言語環境や規範意識を重視しながら、児童に愛校心と自己有用感が育まれるよう道徳教育の推進し、よさを認め、ほめて伸ばす指導の充実を図る。

❁ 児童の実態に即した対応と共通理解

保護者との連携の強化する。（個人面談、学校公開、ホームページ）
全教職員が関わり、教育相談の充実を図る。
（校務支援システムの活用）
情報を共有し、学校全体で共通行動する。（いきいき委員会）
学習面でも全職員で分析し、学年ごとの具体的な取組を作成し、つまずきの早期発見・早期対応を実践していく。

❁ 反復学習による習熟

学力向上週間、家庭学習充実週間等を生かすとともに、学習内容のの習熟等、反復学習を自主的に行うことができるよう児童を指導、支援する。

確かな授業実践

❁ 幸手スタンダード授業５の実施・評価

日頃の授業から、幸手スタンダードを意識し、課題と振り返りのある授業を実践する。また、教員自身も指導と評価の一体化を図り、指導方法の工夫と改善を推進する。

❁道徳教育と国語科を中心とした学力向上の取組の推進

対話的な学び一層の充実とよりよい道徳性の育成を通して、国語科を中心とした学力のみならず、自己有用感、努力調整方略、向社会性を中心とした非認知能力の向上を図る。

❁ ICT機器を活用した授業の実践

一人一台端末の活用による協働的な学びと個別最適な学びの機会を一層充実させ、児童一人一人のICT活用能力を育成すると共にPBL型の授業の充実を図る。

❁ 複数名の教師の指導による算数授業の充実

テスト各種の結果から児童の課題を把握し、各学年でTTや少人数等指導形態を工夫することで、個に応じた指導を充実させる。習熟の時間を確保することで、基礎基本の徹底と定着を図る。

授業外での取組

❁ 反復学習の徹底による基礎基本の定着

学習内容の定着を図るために、習熟の時間の確保、ドリル学習の２回以上実施、ドリルパーク等のウェブサイト教材の積極的な活用を実践していく。

❁ 個々の意欲を引き出す取組の推進

すきま読書や週末読書、読書祭りなど、読書の機会を確保し、読解力の向上や豊かな心の成長を目指す。また、キャリアパスポートを活用し、行事ごとの振り返りや自分の考えを記入させていくことで、表現力を向上させると共に自己有用感を高めていく。ほめる教育の実践。

❁ ICTを活用した学習の場の充実

ホームページ上からの「コバトン問題集」や「復習シート」、「幸手市パワーアップシート」を活用できることを教職員・児童・家庭に周知し、活用を促進する。
タブレット端末での学習課題の配信、ICT教材の積極的な活用を通して、個別最適な学びを推進する。

家庭・学校間連携

❁ 家庭との協働による家庭学習の習慣化

個別面談期間を家庭学習充実週間と位置づけ、さくらっ子ノートコンテストを実施（年３回）し、主体的な学習への意欲付けを図る。
充実したノートを公開したり、クラスノートを活用したりすることで、互いの学習方法についても学べるようにする。

❁ 一人一台端末の系統的な活用の推進

校内の様々な授業において、タブレット端末を活用させるため、ICTサポーターや校内の教員同士が協力して、児童の活用スキルを伸ばす。そして、身に着けたスキルを家庭学習においても実践できるよう家庭と連携する。

❁ 幸手中学区連携

幸手中学校区での合同研修会や小・小、小・中が連携した授業研究及び幸手中学校との９年間を見据えた道徳教育の連携を通して、主体的に学ぶ児童生徒の育成していく。